

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第6回 相模原市地域交通活性化協議会		
事務局 (担当課)		まちづくり推進部 交通政策課 電話042-769-8249(直通)		
開催日時		令和3年5月25日(火)13時30分~15時30分		
開催場所		ウェブ開催		
出席者	委員	17人(別紙のとおり)		
	事務局	7名		
公開の可否		可	不可	一部不可
		傍聴者数		0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 会長の選任について</p> <p>(2) 次期総合都市交通計画(案)について</p> <p>(3) 次期計画における施策・成果指標について</p> <p>(4) 幹線道路ネットワークについて</p> <p>(5) その他</p> <p>3 閉会</p>		

議 事 の 要 旨

(1) 会長の選任について

(事務局) 前会長の横浜国立大学 中村委員の辞任に伴い、改めて会長及び副会長の選出をさせていただくものである。なお、協議会設置要綱第4条により会長及び副会長は、委員の互選にて選出することとなっているが、中村前会長より、次期会長は東洋大学の岡村委員を、副会長は東海大学の梶田委員との御推薦をいただいている。

(橋山委員) 中村前会長の御推薦のとおりで異議なし。

(事務局) それでは、会長は岡村委員、副会長は梶田委員を選出させていただく。

(2) 次期総合都市交通計画(案)について

事務局にて資料1について説明を行った。

質疑等は特になし。

(3) 次期計画における施策・成果指標について

事務局にて資料2及び資料3について説明を行った。

(梶田委員) 資料2中「小さな交通の検討実施」について、これは需要が小さいという意味でよいか。今後、コミュニティ交通や自家用有償運送、他の地域サービスなどとの連携が必要となってくると思うが、考え方を教えていただきたい。

(事務局) 資料2中「公共交通体系図」に記載のとおり、コミュニティバスや乗合タクシー、デマンドタクシーなどのコミュニティ交通を次期計画において整理するが、市内に点在する交通不便地区のエリアが小さいため、このようなコミュニティ交通で救っていくことは効率的ではないエリアが多く存在する。よって、コミュニティ交通で対応が困難な小さい需要に対しても対応できる交通を小さな交通と考えており、例えば福祉事業者の送迎車両の空き時間を使って、買い物や通院といった特定の目的を対象とし、週1～2回程度の少ない頻度で運行する形態を想定している。

(梶田委員) 資料2中「TDM施策の推進」について、県道52号における沿線企業との連携とあるが、現時点で既に連携されているのか。

(事務局) これまでTDM施策としての連携を図ったことはない。以前BRT事業に関連して、アンケートの協力依頼をしたことはあるが、年月が経過していることから、今回、仕切り直しとして新たに連携を図っていきたい。

(梶田委員) 資料2中「発災時に向けた連携強化」について、発災時における情報提供体制の構築は重要であると考えますが、どのようなものを想定されているのか。

(事務局) 市では毎年1回、鉄道及びバス事業者、市の危機管理部門等で構成する連絡会議を開催し、情報共有体制の確認を行っている。また、防災無線を各駅やバス営業所に置いていただき、定期的に訓練を行っている。こうした内容を次期計画に位置付けていきたい。

(岡村会長)「小さな交通」について、公共交通の関係者としてはイメージできるものであるが、正式な用語ではない。よって、例えば、道路運送法によらないもの、地域や対象者が限定されているもの、有償運送との違いは何か、などを計画に記載する必要がある。また、記載にあたっては、「コミュニティ交通」といった用語も含めて伝わりやすさに留意する必要がある。

(梶田委員) 施策目標 1 のモニタリング指標である地域別公共交通利用者数について、路線別の観点はないのか。

(事務局) 他の指標として、基幹・幹線バス運行水準を設定しており、基幹バス 3 路線、幹線バス 7 路線の運行本数をモニタリングすることとしている。市内で 130 以上ある路線全てを測ることは難しいため、一定の運行水準が必要となる全 10 路線を対象とすることを想定している。

(梶田委員) 施策目標 4 のモニタリング指標であるユニバーサルデザイン車両導入台数について、実際の導入状況、稼働率はいかがか。

(事務局) 500 台以上ある市内タクシー車両のうち、ユニバーサルデザイン車両は 10% 程度。国においても導入台数の目標を定めているため、その目標を参考にモニタリングを行っていく。稼働率までは把握が難しいため、タクシー協会と連携しながら、効果的に測定できるものを検討していく。

(椎橋委員) 鉄道事業者へ御意見を伺いたいが、施策目標 1 の成果指標「公共交通利用者数」について、コロナ禍における利用者数を基準値とし、それを上回る数値を目標として設定したいと考えている中で、資料 1 にも記載があったとおり、鉄道やバスといった公共交通利用者の減少傾向が見られ、鉄道事業者各社の決算説明においても利用者が 2 ~ 3 割程度減少しており、今後も戻らないのではという見立てをされていることは承知をしているところである。このような状況において、目標値設定の方向性について、御意見等あれば後日でも構わないのでいただきたい。

(岡村会長) 目標値の設定よりも、考え方の方が難しい。何もしなければ予想としてこうなるであろうといったベース(予測)がある中で、施策の実施によりどこまで上乘せするのか、もしくは下方となることを想定して計画に位置付けるのかという議論である。予想の部分と施策によって促したい部分(計画として持っていきたい部分)とが区別されておらず、計画として持っていきたい部分(意図)の記載が重要であると考え。最終的には、委員皆様の御意見が反映された形で計画に位置付けられれば良い。

(梶田委員) 自転車に関する施策について、主に都市部における内容となっているが、近年、健康志向や観光といったテーマもある中で、特に、山間部におけるサイクリングの利用状況はどのようなものか。

(事務局) オリンピック開催もあり、以前と比較するとサイクルツーリズムに対する気運は、特に津久井地域において上昇しているが、自転車通行環境の整備は、安全性の観点からも、自転車交通量の多い旧市の市街地中心において実施することを考えている。

(岡村会長) 生活道路に関連して、国においても生活道路の交通安全対策に関するポー

タルサイトなどができ、道路管理者や交通管理者を巻き込んで注力しているところであり、幹線道路と生活道路を区別して事故の発生状況などを提示しているため、モニタリング指標として設定してはどうか。

(岡村会長)「賑わい」について、コロナ感染拡大前に戻ってほしいということは大事であるが、「賑わい」＝「密」というマイナスのイメージを持たれないかという懸念がある。「賑わい」＝「交流促進」であるため、滞在人口及び滞在時間が増えることによって交流が促進されると考える。このあたりはまちづくり関連の計画と表現の整合を図る必要がある。

(事務局)いただいた御意見を踏まえ、説明できる形として検討していく。

(4) 幹線道路ネットワークについて

事務局にて資料4について説明を行った。

(梶田委員)次期計画における幹線道路ネットワークとしては、多摩や愛川をはじめとし、周辺市町村とのネットワークをより強化していくということによいか。

(事務局)主要幹線道路があれば、東西南北の都市に接続するネットワークとして構築できるものとして設定している。特に、東京都の多摩尾根幹線道路に接続する多摩方面に伸びる路線については交通負荷などを考慮し、また、津久井地域については災害対応の観点から強靱化を図っていきたいという趣旨から格上げを行っている。

(5) その他

(事務局)次回協議会については、計画書(案)、計画の進行管理等を議題とし、令和3年8月末頃の開催を予定している。日時等の詳細については改めて御案内させていただきます。

以上

第6回 相模原市地域交通活性化協議会 出欠席名簿

所属・役職	氏名	出欠
東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授	岡村 敏之	出席
東海大学 工学部 土木工学科 教授	梶田 佳孝	出席
一般社団法人神奈川県バス協会 常務理事	小堤 健司	欠席
神奈川県タクシー協会相模支部 常任理事	大畠 雄作	欠席
東日本旅客鉄道株式会社横浜支社 総務部企画室	永島 直紀	代理出席
東日本旅客鉄道株式会社八王子支社 総務部経営企画室 企画部長	筑井 裕之	出席
小田急電鉄株式会社 交通サービス事業本部交通企画部 課長	山野 泰弘	代理出席
京王電鉄株式会社 鉄道事業本部 計画管理部 計画担当課長	藤井 一郎	代理出席
神奈川中央交通株式会社 運輸計画部 課長 生活交通担当	橋山 英人	代理出席
京王電鉄バス株式会社 取締役運輸営業部長	福島 八束	出席
富士急バス株式会社 専務取締役	古谷 幸二	出席
国土交通省関東地方整備局 建政部 都市整備課長	大櫛 寛之	欠席
国土交通省関東地方整備局 相武国道事務所 計画課長	山田 寛雄	代理出席
国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 運輸企画専門官	山崎 真路	代理出席
神奈川県警察本部 交通部交通規制課 都市交通対策室 副室長	平塚 友幸	代理出席
相模原市自治会連合会 理事	志村 勝美	欠席

相模原商工会議所 事務局長	布施 昭愛	出席
社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 嘱託職員	小林 輝明	代理出席
公益社団法人相模原市観光協会 事務局参与	中島 伸幸	欠席
公募市民	石月 光子	欠席
公募市民	櫻井 正友	出席
公募市民	高橋 達見	欠席
相模原市 都市建設局 道路部長	渡邊 建太郎	出席
相模原市 都市建設局 まちづくり推進部長	椎橋 薫	出席